

一斉学習  
同時進行型

実践タイトル 学習者用デジタル教科書と古文の読み取り

本時のねらい

「竹取物語」の冒頭部分を音読し、言葉遣いや古語の意味に気を付けながら、内容を理解する。その際学習者用デジタル教科書を活用し、脚注を消したり再表示したりすることで、仮名遣いの理解を深める。古文と現代語訳を対照させながら読むことで、言葉の意味を把握できるようにする。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

- タブレットPC** 生徒一人ひとりがタブレットPCで、学習者用デジタル教科書を活用することで、古文に対する学習意欲の向上をはかる。
- 学習者用デジタル教科書** 学習者用デジタル教科書の特性（朗読機能、歴史的仮名遣いを消したり、表示したりすること、蛍光ペンを使った文字の強調、付箋機能）を活用し、古文の読み取りを支援する。

参考にしてほしいポイント

朗読機能、蛍光ペンでの本文チェック、付箋への学びの記録など学習者用デジタル教科書の特性を活かした古文の読み取り。

学習の流れ(分)	主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
本時の導入	0	○現代仮名遣いを消した冒頭部分の古文を音読する。 ・学習者用デジタル教科書（写真1）
	12	○現代仮名遣いに直す語句を蛍光ペンでチェックし確認する。 ・学習者用デジタル教科書（写真2）
展開	12	○タブレットPCの画面を電子黒板に表示して共有し仮名遣いを確認する。 ・電子黒板・タブレットPC（指名した生徒が記入）
	39	○古文と現代語訳を対照させて言葉の意味や内容を把握する。 ・電子黒板（注意すべき言葉を表示）
まとめ	39	○古文では主語に付く助詞が省略されることを確認する。
	50	○今日の学習を振り返り、記録に残す。 ・タブレットPC（付箋機能を使って記録）（写真3） ○古文と現代語訳を対照させながら音読し理解を深める。 ・学習者用デジタル教科書（ペア学習）



写真1：朗読機能を使用し、音読を支援する

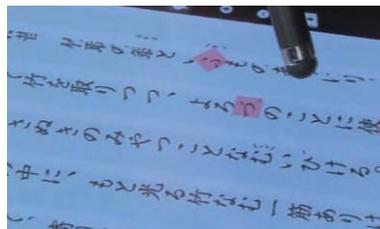


写真2：本文を蛍光ペンでチェックする



写真3：本時の学びを付箋に記入し記録する

児童生徒の反応

本学年は平成24年度、電子黒板と学習者用デジタル教科書を活用して、国語の授業を行ってきた。そのため、生徒も自然に学習者用デジタル教科書を活用してサイドラインを引いたり、印を付けたりしながら機器を使いこなせるようになってきている。本時を通して、本文の意味を考えたり、歴史的仮名遣いを現代的仮名遣いに変えてスラスラと音読をしたりすることができた。

活用効果

評価の観点	国語への関心・意欲・態度
具体的変容	古文が苦手な生徒にとって、朗読機能を用いたり、電子黒板に投映されたタブレットPCの画面を共有したりすることが、学習の支援となり、興味関心を持って取り組むことができた。また、その当時を示す資料図版を拡大したり、意味調べをしたりすることが容易にできるため、古文そのものに関心を持って学習しようとする意欲が見られるようになった。

実践の手応え

学習者用デジタル教科書の特性である朗読機能や表示・非表示の機能を、生徒一人ひとりの学びにあった使い方にすることで、きめ細やかな授業を行うことができた。また、付箋機能を使用し学習の記録を容易に保存できることで、生徒自身が到達度を確認しやすくなった。さらに、保存した学習の記録を次時に閲覧することで、これまでの学習内容を想起しやすくなった。これらは生徒の学習に対する意欲を継続させることにつながった。